NO BOOK, NO LIFE!!

静岡県立浜松湖北高等学校図書館通信R5.5 VOL2

新しい環境になってから、ひと月が経ちました。居心地のいい場所・人は見つかりましたか？今年は、気候変動による早い時期の夏日や大雨などすごしにくい日も多くなりそうです。突然の変化には、体調や気持ちが乱されることもあるのではないでしょうか？うまくいっていたのに、なぜか躓いてしまった・・・。楽しかったのに、心が折れる・・・。そんなときには、ぜひ図書館で一息ついてみてください。あなたにお勧めの一冊がきっとみつかります。

最新メディアミックス

話題の映像化作品の原作小説です。
どの作品も奥深い内容で、メディアミックスに取り上げられるのにふさわしく、読み応えアリ！です。

『銀河鉄道の父』門井慶喜著　講談社文庫

宮沢政次郎の長男・賢治は、家業の質屋を継ぎたがらず、適当な理由をつけては金の無心をするような困った息子。政次郎は厳格な父親であろうと努めるも、賢治のためなら、とつい甘やかしてしまう。やがて妹・トシの病気を機に、賢治は物語を書き始める。

『渇水』河村滿著　KADOKAWA

市役所の水道部に勤め、水道を止める「停水執行」を担当する岩切は、3年間支払いが滞っている小出秀作の家で、秀作の娘・恵子と久美子姉妹に出会う。小出の妻は不在、秀作も長いあいだ家に戻っていなかった。姉妹との交流を重ねていく岩切だったが、停水執行の期限は刻々と迫る。

『ケーキの切れない非行少年たち』宮口幸治著　新潮社

児童精神科医である著者は、多くの非行少年たちと出会う中で、「反省以前の子ども」が沢山いるという事実に気づく。少年院には、認知力が弱く、「ケーキを等分に切る」ことすら出来ない非行少年が大勢いたが、問題の根深さは普通の学校でも同じだった。

『ハヤブサ消防団』池井戸潤著　集英社

東京での暮らしに見切りをつけ、亡き父の故郷であるハヤブサ地区に移り住んだミステリ作家の三馬太郎。地元の人の誘いで居酒屋を訪れた太郎は、消防団に勧誘される。やがてのどかな集落でひそかに進行していた事件の存在を知る。連続放火事件に隠された真実とは？

第一回図書館イベント　ラグビー部有志による　朗読パフォーマンス

図書委員会が企画して開催する図書館イベントの第1回が、5月2日に開催されました。今年のテーマは『声に出して読んでみたい！聞いてみたい！』です。ラグビー部有志の皆さんが「ラグビーへの道」（堀越慈著）という作品の序章を力強く朗読しました。ラグビー部の皆さんの勢いや、書物からのメッセージが心に響く良い図書館イベントとなりました。

朗　読
31HR鈴木湊士郎　28HR名倉立翔
28HR鈴木開斗　27HR海老塚太貴
26HR林勇登

『ラグビーへの道』

堀越慈著　三一書房

30年前に執筆された本著はラグビーについて、「さまざまなスポーツを兼ね備えた集団的格闘技であり、華麗なパス攻撃やチームごとのプラン、多様な個性の選手が活躍する見どころがありすぎるスポーツ」としています。その文章は30年たった今も色あせず、熱く語りかけてきます。

パフォーマンス
22HR森本瑞生　23HR池谷泉輝
26HR太田有耶　26HR宮城匠
26HR山本侑輝　28HR土屋大樹
36HR高村勇獅

「ラグビーへの道」（堀越慈著）は、ラグビーというスポーツを、よく理解してもらえる本です。図書館イベントではラインアウトをしたり、ウイングになってパスを回すような朗読を行うことで、作品にもラグビーにも興味を持ってもらえたと思います。ラグビー部主将　31HR鈴木湊士郎

朗読する本を理解して内容に魅力を感じている人が、実際に声に出して読むということは聞く側にも内容が伝わってきます。今回はラグビー部のパフォーマンスもあり、ラグビーというスポーツの迫力を感じることができ、朗読の内容がよりリアルになりました。

35HR　樋口理奈

先生のお薦めコーナー

から、校長先生・副校長先生・教頭先生のお薦め本の紹介です。生徒の皆さんが高校生時代に読むのにふさわしい一冊です。ぜひ、手に取って読んでみてください。

大澤貢校長先生

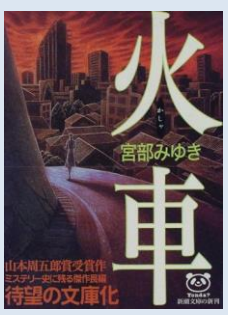
『僕が生きた道』　橋部敦子　著

平凡な生活を送っていた理科教師の中村先生。そんな彼に余命1年の宣告が下る。これまで無難に生きてきた彼は初めて28年の人生を後悔する。残り少ない人生を”生きる”と決めた彼は合唱コンクールの指導を通して充実した毎日を送る。「人生とは何か？」を考えさせられる作品です。

加藤剛史副校長先生

『火車』　宮部みゆき　著

山本周五郎賞を受章したのが、１９９３年なので３０年近い昔の話。でも読後に圧倒されたことをまだ覚えている。インターネットやケータイのなかった時代の推理小説。今の時代で読むと、どのように感じるのか、改めて読み返してみたい。



竹内正明教頭先生

『同志少女よ敵を撃て』逢坂冬馬　著

本書は、本屋大賞にて1位となっただけあり、読み応えのある内容でした。ごく有り触れた日常生活が戦争により一瞬にして壊され、人々は、殺し、殺される悲惨な世界に巻き込まれていきます。主人公の少女も家族や地域の人たちを皆殺しにされ、復習をするために、積極的に戦争に身を投じます。戦争に参加する意味、敵を殺す意味、平和とは、幸せとはなど、本書を読んで考えさせられることが多くありました。厚い本ですが大変読みやすいので皆さんも是非読んでみてください。

文学忌　ぶんがくき

2月 3日　雪池忌 - 福沢諭吉
3月 6日　寛忌 - 菊池寛
3月24日　檸檬忌 - 梶井基次郎
4月16日　康成忌 - 川端康成
5月29日　白桜忌 - 与謝野晶子
6月19日　桜桃忌 - 太宰治
7月 9日　鴎外忌 - 森鴎外
7月24日　龍之介忌 - 河童忌 - 我鬼忌
　　澄江堂忌 - 芥川龍之介
7月28日　柘榴(ざくろ)忌 - 江戸川乱歩
7月30日　谷崎忌 - 潤一郎忌 - 谷崎潤一郎
8月22日　藤村忌 - 島崎藤村
9月21日　賢治忌 - 宮沢賢治
9月26日　八雲忌 - 小泉八雲
10月21日　直哉忌 - 志賀直哉
10月22日　中也忌 - 中原中也
11月23日　一葉忌 - 樋口一葉
11月25日　憂国(ゆうこく)忌 - 三島由紀夫
12月 9日　漱石忌 - 夏目漱石

文学忌（ぶんがくき）とは、作家の命日をその雅号やペンネーム、代表作などにちなんで、その文学的な業績を偲ぶ日としています。好きな作家の文学忌に、代表作を読んでみてはいかがでしょうか？

本屋大賞

全国書店員が選んだいちばん！売りたい本

今年で 20 回目になる本屋大賞が発表されました。過去一年の間、本をよく知る立場にいる全国書店員さんが選んだ「いちばん!売りたい本」です。2023 年本屋大賞には凪良ゆう 著 『汝、星のごとく』が選ばれました!本屋大賞が始まって今年で 20 年、受賞作品は話題のベストセラーになり、今も心に響くこれら受賞作は色あせません。今年の受賞作はもちろん、歴代作品も是非読んでみて下さい。

歴代の本屋大賞受賞作一覧

2022年『同志少女よ、敵を撃て』逢坂冬馬
2021年『52ヘルツのクジラたち』町田そのこ
2020年『流浪の月』凪良ゆう
2019年『そして、バトンは渡された』瀬尾まいこ
2018年『かがみの孤城』辻村深月
2017年『蜜蜂と遠雷』恩田陸
2016年『羊と鋼の森』宮下奈都
2015年『鹿の王』上橋菜穂子
2014年『村上海賊の娘』和田竜
2013年『海賊とよばれた男』百田尚樹
2012年『舟を編む』三浦しをん
2011年『謎解きはディナーのあとで』東川篤哉
2010年『天地明察』冲方丁
2009年『告白』湊かなえ
2008年『ゴールデンスランバー』伊坂幸太郎
2007年『一瞬の風になれ』佐藤多佳子
2006年『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』リリー・フランキー
2005年『夜のピクニック』恩田陸
2004年『博士の愛した数式』小川洋子

2023年　本屋大賞受賞

『汝、星のごとく』凪良ゆう著　講談社

風光明媚な瀬戸内の島に育った高校生の暁海（あきみ）と、自由奔放な母の恋愛に振り回され島に転校してきた櫂（かい）。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人は、惹かれ合い、すれ違い、そして成長していく。地域の閉鎖性、ヤングケアラー、毒親、新興宗教、多様性…。現代の多くの社会問題の中で、翻弄され道がそれても、目を凝らして見るほどに瞬く星を信じ、生き方を貫く二人。

凪良 ゆう　(なぎら・ゆう)
京都市在住。
2007年　初著書が刊行され本格的にデビュー。
BLジャンルでの代表作に「美しい彼」シリーズなど多数。
2017年　『神さまのビオトープ』を刊行し高い支持を得る。
2019年　『流浪の月』と『わたしの美しい庭』を刊行。
2020年　『流浪の月』で本屋大賞を受賞。

5類

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行しました。全国的にコロナ騒動となってから3年、やっと「日常」が戻ってきそうな大きな転換点です。コロナ生活で意識や考え方、システム、習慣など変わった部分も多いので、すっかり前と同じようになることはないでしょう。以前は常識と思ってきたことが、よく考えたら不要なものだったというような、改善されたこともあると思います。図書館では、机・椅子の消毒は継続されます。図書委員のカウンター内作業の人数制限は解除いたします。学習コーナーの椅子が、3脚から4脚に戻されました。

※　書籍の画像やメデイアミックス情報は各所に許可を得ております。